

19. 最近の親子同居の動向……………廣嶋 清志 (人口問題研究所)
20. 年齢別世代数別延べ人口の分布——人口構造の一分析——……………松下敬一郎 (龍谷大学)
21. 山形県・鹿児島県の平均世帯主余命等の比較……………山本千鶴子 (人口問題研究所)
22. 都市の女性のライフスタイル……………大内 修 (住友生命総合研究所)
23. 社会病理の地域構造——アノミー・インデックスによる分析——……………新田 功 (明治大学)
24. 経営人口学における事例研究——消費者と葬祭業——……………今井 孝平 (中央大学)
25. 世帯数の増加と住宅建設循環……………石 南國 (城西大学)
26. 賃金プロフィールに関する時系列的分析……………小川 直宏 (日本大学)
27. 奥会津地方における人口変動 (18～19世紀)……………川口 洋 (東京家政学院筑波短期大学)
28. 日本の前工業化期における世帯の特徴……………石原 正令 (関東学園大学)
29. 江戸時代後半期東北地方一農村における人口移動
——宗門改帳の分析を通して——……………木下 太志 (江南女子短期大学)
30. 近世後期日本の乳児死亡……………鬼頭 宏 (上智大学)
31. 明治以降の日本の人口曲線 (4)……………篠崎 吉郎 (帝塚山大学)
32. ビジネス・デモグラフィーに関する一考察……………安藏 伸治 (明治大学)
33. 人口政策としての国際移動者の統合……………小島 宏 (人口問題研究所)
34. アルフレッド・ソーヴィの思想——その死を悼み——……………岡田 實 (中央大学)
35. 出生力転換について……………河野 稠果 (人口問題研究所)
36. 人口転換論再考……………黒田 俊夫 (日本大学総合科学研究所)

なお、明年の第45回大会は、東北福祉大学において開催される予定である。

(金子武治記)

日本人口学会関東部会第9回研究報告会

平成4年6月27日(土、午後2時～5時)、日本人口学会関東部会第9回研究報告会が駒沢大学学生会館において開催され、以下の報告があった。

- 座長 石 南國 会員 (城西大学)
- 報告者 稲葉 寿 会員 (人口問題研究所)
論題「結婚力と結婚出生力に基づく安定人口理論」
- 報告者 大友 篤 会員 (日本女子大学)
論題「高齢人口移動の転換——国際比較共同研究の成果から——」

稲葉会員は近年における日本の出生力低下、またその再生産力の変動を理解するために、結婚の次元を取り入れた動的人口モデルを定式化し、それにもとづく再生産指標を導くとともに初婚の遅れが期間出生力の低下をもたらす可能性の程度を例によって示した。大友会員は Andrei Rogers 教授 (コロラド大学) が中心となっていた高齢人口移動の国際比較研究のうち、第二次研究 (1989-1992) の成果、とくに日本における高齢人口移動の転換について報告した。出生・死亡における転換 (Vital Transition) とともに、移動における転換 (Mobility Transition) があったとする興味深い仮説が紹介された。

(稲葉 寿記)